

石狩の空襲

～“石狩十大事件”番外編?～

いしかり砂丘の風資料館で実施された「石狩十大事件…って、どれ?」で候補20件の中から来館者の皆さんに投票してもらい、最も票を集めたのは「石狩空襲」でした。

1939(昭和14)年から1945(昭和20)年まで起こった第二次世界大戦は歴史的にも大きな出来事であり、広島や長崎の原爆については誰もが聞いたことがある中、そうした戦争の跡といったものを身近な、地元の出発点として知る事ができるのがこの「石狩空襲」だったのではないのでしょうか。この空襲は1945年7月14日・15日に起きた「北海道空襲」の一部で、石狩ではアメリカ海軍艦載機により石狩本町地区、八幡町、厚田区望来、古潭、浜益区毘砂別が被害を受けました。『戦災記録簿』によると、機銃掃射によって馬や牛が撃たれた他、30余りのアメリカ軍艦載機による銃爆撃も行われ、旧石狩市域では死者13人、被災家屋224戸、罹災者約900人にのぼり、札幌市を含む石狩管内で最大の被害を受けました。建造物への被害も大きく、当時の町役場庁舎や海浜ホテル(1937年建設・田上義也設計)も焼失しました。

今回展示した資料は、「5インチロ



▲5インチロケット弾の一部

ケット弾の一部です。5インチ(12.7cm)ロケット弾は、アメリカ海軍が第二次世界大戦で使用した兵器で、航空機から艦船や地上の目標を攻撃しました。全長165cmで弾頭に約20kgの弾薬が取り付けられました。石狩を攻撃したアメリカの艦載機F4Uコルセア戦闘機は8発のロケット弾を装備していました。展示したロケット弾には、弾薬が入っていた先端部は

残っていませんが、金属のひしゃげた状態から爆発の威力がうかがわれます。

この「石狩空襲」は大変悲惨な事件である一方、今回、「現在の石狩への影響度」という面から十大事件には含めることはできませんでした。しかし、北海道・日本全域の歴史として非常に重要な意味を持つ出来事であることに間違いありません。

(坂本恵衣)

いしかり砂丘の風資料館開館20周年記念特別展

石狩十大事件
～何が現在の石狩をつくった?～

開催中～11/10(日)

※5インチロケット弾の一部も展示しています



石狩市学芸員
坂本恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

圃文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館